

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	154人	社会	154人	数学	153人
	理科	153人	英語	152人		

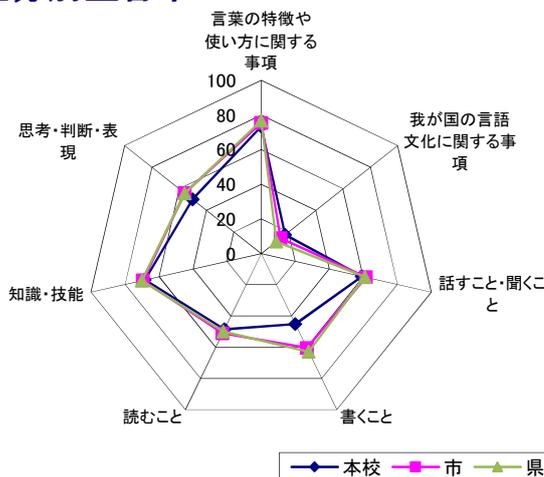
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立旭中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.4	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	17.5	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	59.3	61.6	60.9
	書くこと	45.1	60.4	62.9
	読むこと	48.5	51.0	49.9
観点	知識・技能	68.3	69.4	70.1
	思考・判断・表現	50.3	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

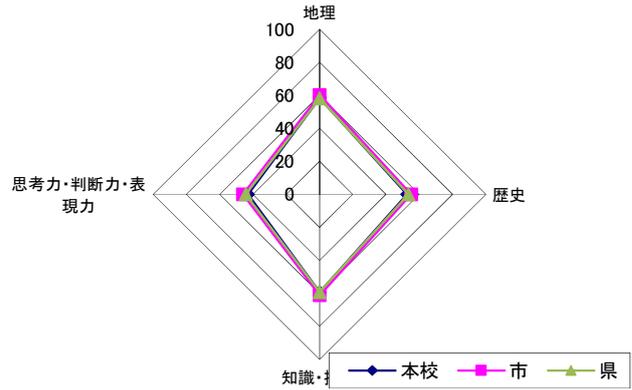
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○故事成語の使い方は、市のポイントを4.4ポイント上回っている。また、文節の関係については、市・県の平均とほぼ同じである。 ●小学校で学習した漢字を正しく書くことについて、県の平均を10.1ポイント下回った問題があった。全問題において、市・県の正答率を下回る結果である。単語の種別の理解については、市の平均を4.2ポイント下回っている。	・正答率を上回った故事成語については、今後もミニテストなどで復習と強化に対応した指導を続ける。 ・小学校で学習した漢字を正しく書くことについては、定期的な漢字テストやAドリルの活用で定着させる指導を行う。また、単語の種別の理解については、各文法項目の学習の際に毎回基礎事項から復習し内容の定着を指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題では、市の平均を3.2ポイント上回っている。	・正答率を上回った歴史的仮名遣いに直す問題については、引き続き練習問題を解かせて定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	○話し手が話した内容を説明したものを選ぶ問題では、県の平均を1.7ポイント、司会者の話し合いの進め方の工夫として適したものを選ぶ問題では、県の平均を2.8ポイント上回っている。 ●話し手の話し方として適するものを選ぶ問題では、県の平均を3.6ポイント下回っている。また、条件に従って自分の考えを書く問題では、県の平均を7.4ポイント下回っている。	・相手の話の内容や話し合いの進め方の工夫を意識する指導を引き続き行っていく。 ・話し手の話し方として適するものを選ぶことは、聞くテストや実践を通して意識できるよう指導する。条件に従って自分の考えを書くことは、短答式の作文問題を多く解かせることで苦手意識を低くする指導を行っていく。
書くこと	●すべての問題において、県の平均を下回った。指定された長さで文章を書く問題では、県の平均を20.6ポイント、2段落構成で文章を書く問題では、県平均を17.6ポイント、読み取った内容を明確に書く問題では、17.0ポイント、明確にして書く問題では、15.8ポイント下回っている。	・すべての問題で平均を下回ったことは、無回答の生徒が多いことも原因と考えられる。また、無回答は後半の問題に多いことから、考えをまとめて書くのに時間がかかる生徒が多いと考えられる。書くことに対するハードルを下げるため定期的に小作文を実施し、褒めること中心の添削をしていく。また読むことと重複するが、内容の要約を各項目ごとに実施し明確な表現について意識できるように指導する。
読むこと	○文章の構成や展開を根拠を明確にして考えるかという問題に対しては、0.9ポイント、場面の展開や登場人物の心情の変化を描写をもとにして捉える問題に対しては、2.6ポイント県平均を上回った。 ●必要な情報に着目して、内容を読み取る問題においては、3.3ポイント、場面と場面、場面と描写などを結び付けて解釈する問題においては、4.4ポイント県平均を下回っている。	・文章の構成や展開を根拠にして考えることや、場面の展開や登場人物の心情の変化を描写をもとにして捉えることについては、引き続き情景描写や接続語に注意して読み取っていく指導を行っていく。 ・内容の読み取りに関しては、段落ごとに内容を要約することや、段落同士の関係を読み取らせることを通して文章全体の構成や展開、解釈まで意識できるよう指導する。

宇都宮市立旭中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	58.4	60.1	58.1
	歴史	52.7	55.1	53.5
観点	知識・技能	59.4	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	43.0	46.0	44.3



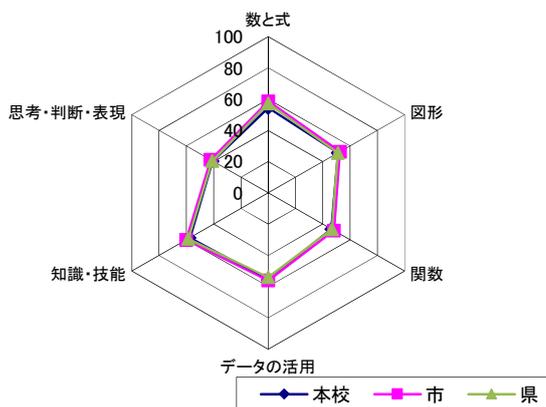
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○特に、排他的経済水域の範囲と沿岸国の権限を述べた文として正しいものを選ぶ問題では、7.9ポイント、亜寒帯気候の風景と雨温図の組み合わせとして正しいものを選ぶ問題では、12.9ポイント、資料で示されたヒンドゥー教が分布している地域を地図中から選ぶ問題では、4.1ポイント県の平均を上回った。</p> <p>●地図中に示された3つの県の共通点を述べた文として正しいものを選ぶ問題では、県の平均を0.9ポイント、資料で示されたフィヨルドがある地域を地図中から選ぶ問題では5.4ポイント、アメリカ合衆国の気候と農業分布の関係を述べた文として正しいものを選ぶ問題では、3.3ポイント、資料から読み取れる内容を用いてナイジェリア経済の課題を考えて記述する問題では7.8ポイント、移民の推移を示したグラフから読み取れる内容を古い順に並べ替えて書くことは県の平均を下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>今後の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに記述する問題に対応できるよう、教科書等に掲載されているグラフや主題図を活用して、読み取ったことを自分の言葉で記述できるような活動を行う。 ・「位置」や「場所」が基本となるため、授業において地図を活用して、「どこに何があるか」、「なぜそこにあるか」を定着させるよう指導していく。
歴史	<p>○旧石器時代の生活の様子の問題では県平均を4.4ポイント、古代文明で使用された文字と説明の組み合わせを選ぶ問題では県平均を4ポイント上回っており、古代文明の様子についての知識が身に付いている。</p> <p>●聖徳太子の目指した政治についての問題では、県平均を5.7ポイント下回った。</p> <p>●記述式解答の問題の無回答率が全体的に高い。</p>	<p>今後の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに記述する問題に対応できるよう、教科書等に掲載されている絵画や写真資料などの図版やグラフ等を活用して、読み取ったことを自分の言葉で記述できるような活動を行う。 ・歴史的分野では、文章資料が数多くあるため、資料を読み取り、要約する活動を行い、歴史的背景を理解できるように指導していく。 ・「いつ、何が起こったか」についての知識が定着するよう、年表を活用した授業を行っていく。

宇都宮市立旭中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	54.4	58.6	57.2
	図形	51.2	52.6	51.1
	関数	46.3	48.2	46.8
	データの活用	55.7	56.1	54.1
観点	知識・技能	57.5	60.2	58.6
	思考・判断・表現	40.7	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

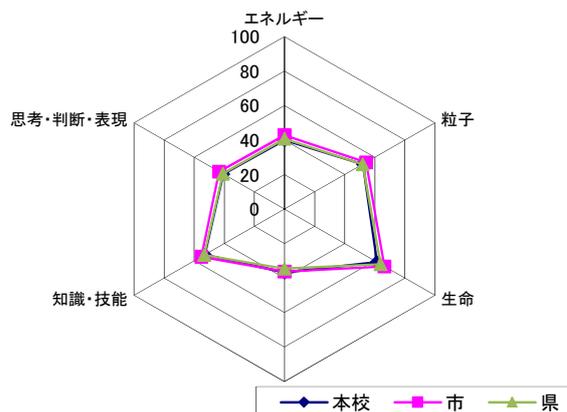
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数量の関係を不等式に表すことができるかどうかをみる問題では、市全体を2.5ポイント、県全体を4.1ポイント上回った。 ●13問中8問で市平均と県平均を下回り、特に、素因数分解ができるかどうかをみる問題、移項を必要としない1次方程式を解くことができるかどうかをみる問題では、市平均を10ポイント下回った。	・基礎・基本となる計算力に課題が見られるため、授業導入等で復習となる計算問題に取り組ませていく。
図形	○平均正答率は51.2%であり、県全体を0.1ポイント上回った。6問中4問で市平均または県平均を上回った。 ●円柱の側面積を求める式を理解しているかどうかをみる問題と、垂直二等分線の性質を理解し、作図することができるかどうかをみる問題では、市平均と県平均を下回った。特に後者は市平均を11.4ポイント、県平均を6.6ポイント下回った。	・垂直二等分線の作図について、作図方法が分かっているものの場面でどの作図方法を使うのか理解できていなかったのではないかと考えられるため、方法を提示した後、その方法が定着しているかを確認する時間を確保していく。
関数	○与えられたグラフから、求め方を説明することができるかどうかをみる問題では、市平均を0.6ポイント、県平均を1.4ポイント上回った。 ●7問中4問で市平均と県平均を下回った。特に、与えられた表をもとに、xの値からyの値を求めることができるかどうかをみる問題では、市平均を4.7ポイント、県平均を3.0ポイント下回った。	・表、式、変数の値の関係性を改めて理解できるよう指導する。また類似問題を解き、方法が定着しているかを確認する。
データの活用	○平均正答率は55.7%であり、県全体を1.6ポイント上回った。度数分布表から、ある階級の累積度数を求めることができるかどうかをみる問題では、市平均を0.6ポイント、県平均を1.4ポイント上回った。 ●平均値を求める式を選ぶことができるかどうかをみる問題では、市平均を6.9ポイント、県平均を4.5ポイント下回った。	・式の意味を理解しきれていないことが顕著に表れたため、式が意味することを授業を通して示していく。

宇都宮市立旭中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	40.0	42.8	40.8
	粒子	52.1	54.2	52.0
	生命	61.4	66.4	63.8
	地球	36.7	36.2	34.5
観点	知識・技能	52.9	55.2	53.3
	思考・判断・表現	40.9	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

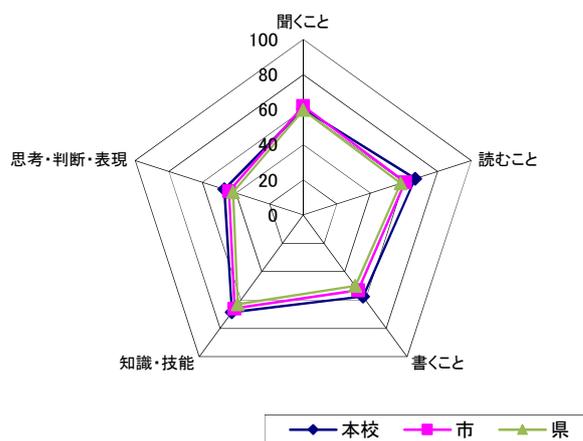
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○スクリーンに映っている像を選ぶ問題では、3.7ポイント、虚像と虚像が見えたときの光の道すじを作出する問題で1.8ポイント、2つのばねの長さが等しくするときのばねに加えた力を求める問題で1.1ポイント県の平均を上回った。</p> <p>●力の大きさとばねののびに関する誤った考察を正しく書き直す問題において、9.0ポイント県平均を下回った。</p>	<p>・フックの法則について、ばねののびがばねを引く力の大きさに比例することを実験を通して理解を図るとともに、結果の表やグラフの読み方を確認し考察する力が定着するように指導していく。</p>
粒子	<p>○アンモニアを上置換法で集める理由を気体の性質にふれて答える記述の問題で6.1ポイント、鉄でできているかどうかを調べる実験を選らぶ問題で5.6ポイント、同じ金属でできている物体を選ぶ問題で5.2ポイント県の平均を上回っている。</p> <p>●密度を求める式と金属の名称を選ぶ問題で、7.2ポイント、塩化ナトリウム水溶液をしばらく放置したあとの粒子のモデルを選ぶ問題で6.6ポイント、質量パーセント濃度を求める式を選ぶ問題で5.5ポイント県平均を下回った。</p>	<p>・密度を求める方法や質量パーセント濃度を求める式など、計算式を選ぶ問題で、公式や具体的な数字を用いた計算練習などを行う。</p>
生命	<p>○昆虫類ではない動物を選ぶ問題で6.3ポイント、分類のために調べるところとどちらのなまになるかを選ぶ問題で4.4ポイント県平均を上回った。</p> <p>●全8問のうち県平均を下回った問題は5問であった。特に植物の分類に関する誤ったまとめを正しく書き直す記述式の問題で10.8ポイント、イモリの子のときと親のときの生活場所について答える記述の問題で7.8ポイント、分類の基準にした動物の特徴を選ぶ問題で6.0ポイント県平均を下回っている。</p>	<p>・生命の分野においては、履修から時間がたっているため正答率が低かったのではないかと考えられる。そのため、復習の時間を設けたり、地球の分野を学習している折に、植物や動物について確認する時間をとることで、知識の定着を図る。</p>
地球	<p>○海岸との距離の変化を選び選んだ理由を答える記述の問題で7.4ポイント、火山をマグマのねばりけが小さい順に並び変える短答式の問題で7.0ポイント県の平均を上回っている。</p> <p>●無色鉱物の名称と無色鉱物を多く含む深成岩の名称を選ぶ問題で10.8ポイント県平均を下回った。また、震源からの距離を選び、その理由を答える問題は9.2%と正答率が低い。</p>	<p>・火山や地層、地震に関する問題では暗記して問題を解こうという傾向が強く、知識を活用して思考を働かせる問題は苦手である。そのため重要語句を関連付けて理解できるようにチャート図を利用したり、映像教材を用いて視覚的に理解を促す。</p>

宇都宮市立旭中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	60.4	62.0	59.7
	読むこと	66.6	60.6	58.0
	書くこと	57.6	53.1	50.1
観点	知識・技能	68.7	66.0	63.0
	思考・判断・表現	46.9	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○英文の要点を聞き取り、適切な移動手段を選ぶ問題では市の平均を6.5ポイント、英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に答える問題では市の平均を4.9ポイント上回った。</p> <p>●平均正答率は60.4であり、市の平均より1.6ポイント低い。対話の内容を聞き、適切に回答しているものを選ぶ問題(2-1,2-2,2-3)では3問全ての問題で市の平均を下回っている。</p>	<p>○教科書の単語を繰り返し練習することで発音の確認をしたり、本文の範読やペアでの対話活動を繰り返し行うことで基礎的な語彙や文法の定着を図る。</p> <p>●授業の帯活動としてRows&Columnsやテーマに即した会話の時間を設けることで、英語を使ってお互いの考えを伝え合う活動に継続的に取り組む。</p> <p>●ALTとの対話やスピーキングテストを定期的に行い、自然な英語の会話の中で自分の考えを相手に伝えようとする態度を育む。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は66.6%であり、市平均より6.0ポイント、県平均より8.6ポイント高い。特に対話から必要な情報を読み取り、適切な表(時間割)を選ぶ問題では市の平均を12.4ポイント上回った。</p> <p>●語形・語法を理解することができるかどうかをみる(be going to の用法)問題では、2.1ポイント市の平均を超えているものの4割程度の生徒が正しい回答を選べていない。</p>	<p>○授業内で教科書の概要について話し合う時間を設け、文章の中の読み解くべき部分を生徒自身が見つかることができるよう指導していく。</p> <p>●授業の前に教科書本文の内容を事前に読み、新出単語の意味を調べるなどの予習に取り組む習慣を身に付けさせることで、生徒自身が初めて出会う文章に対して自分の力で読み解こうとする態度を育む。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は57.6%であり、市の平均より4.5ポイント、県の平均より7.5ポイント高い。</p> <p>●1文目とつながりのある英文を書く問題では、市の平均を2.5ポイント下回っている。また1・2文目とつながりのある英文を書く問題でも市の平均を2.7ポイント下回っている。</p>	<p>○テーマについて、クラスメイトと話し合う時間を設けたり、箇条書きのメモやマッピングなど考えを整理する方法を提示することで、生徒自身が伝えたい内容について考え、どう伝えたらよいか考えを整理しながら英作文に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>●伝えたいけれど伝え方がわからない表現について、タブレットを活用し、自分の考えを伝えるために適した表現を調べさせる。また、調べた内容に加え、既習事項を使って代替できる表現があれば合わせて確認することで、表現の幅を広げていく。</p>

宇都宮市立旭中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- (3)「家で、学校の授業の予習をしている」では、県の平均を4P上回っている。
 (16)「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」では、肯定割合が県の平均を1.1P上回っている。
 (18)「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」では、肯定割合が県の平均を1.2P上回っている。
 (22)「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」では、肯定割合が県の平均を5.0P上回っている。
 (37)「先生は学習のことについてほめてくれる。」では、肯定割合が県の平均を6.5P上回っている。
 (38)「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」では、肯定割合が県の平均を4.4P上回っている。

- (4)「家で、学校の授業の復習をしている」では、県の平均を20.3P下回っている。
 (5)「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」では、県の平均を13.1P下回っている。
 (6)「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」では、県の平均を10.4P下回っている。
 (14)「学校の宿題は、やりたくない内容だ」では、県の平均を12.9P下回っている。
 (30)の「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」では、県の平均を5.8P下回っている。
 (31)「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」では、そう感じている生徒の割合が県の平均より11.5P高い。

- (40)「学校のきまりを守っている」では、肯定割合が県の平均を4.9P下回っている。
 (41)「自分はクラスの人の役に立っていると思う」では、肯定割合が県の平均を6.0P下回っている。
 (48)「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。」では、2時間以上の生徒の割合が県よりも7.5P高い。
 (54)「自分の行動や発言に自信をもっている」では、肯定割合が県の平均を6.5P下回っている。
 (57)「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」では、肯定割合が県の平均を6.2P下回っている。

以上のことから、学習面では、予習は行っているものの、自分で計画的に復習を行ったり、間違えた問題のやり直しをしている生徒の割合が低いと考えられる。したがって、今後は自主学習ノート等を活用して、主体性のある学習習慣の確立に努めさせたい。

また、生活面では、各種行事を通して、きまりを守ることの大切さを指導したり、SNS等の使い方の指導を徹底したりするとともに、自己肯定感を感じられるよう成功体験を増やしほめることを行っていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自主学習ノートの活用	自主学習ノート(実施7年目)を使って、生徒自らが学習課題を考え、毎日1ページ程度取り組み、提出するよう指導する。	「家で、学校の授業の予習をしている」では、県の平均を4P上回っている。「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」では、県の平均を6.7P下回っている。「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」では、県の平均を10.4P下回っている。
学習課題の提示	教室の前面黒板左上部に「学習課題」と書かれた表示板を掲示しておく、授業で活用する。	「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」では、県の平均を5.8P下回っている。
書かせる指導の充実	学習活動、振り返りの場面で、ワークシートや振り返り用紙に書かせることを意図的に設定し(一部タブレットも使用)活動に取り組む。	「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」では、そう感じている生徒の割合が県の平均より11.5P高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
本年度の学習の重点目標に迫る事柄がいずれも県の平均を下回っている。	自主学習ノートの活用の改善 授業の流れ(目標→活動→振り返り)の確認 書かせる指導の充実	自主学習ノートの活用法の見直しと職員の共通理解を図る。 毎時間の授業の流れの確認を意図的に行う。 実際に書くことと書き方の指導・支援の徹底を図る。